

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題

慢性腎臓病保存期療養生活での患者の学び
-血液透析導入後の患者の語りを通して-

2. 研究代表者及び所属

松矢春奈 新潟労災病院

3. 研究メンバー

松矢春奈¹⁾ 佐藤祐子¹⁾ 金井司¹⁾ 高橋久美子¹⁾ 小林綾子²⁾

1) 新潟労災病院 2) 新潟県立看護大学

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 小林綾子

5. 研究費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	28,280	0	46,055	25,665	100,000

6. 研究の概要

慢性腎臓病患者は、保存期を経て透析導入を迎えていくが、この保存期に必要な情報や知識を得て学ぶことは、血液透析導入後の生活にスムーズに移行するために必要である。本研究は、慢性腎臓病患者が保存期療養生活中に学んだことと、保存期に得ておきたかった知識・情報について明らかにすることを目的に行った。対象は、同意が得られた透析導入後3か月経過した患者6名であった。研究方法は、質的記述的研究で、半構成的面接により得られたデータを逐語録にし、コード化、カテゴリー化した。所属施設の倫理審査委員会の審査を得たうえで行った。

結果、慢性腎臓病患者が保存期療養生活中に学んだことは【末期腎不全の症状】【腎臓病の食事療法】【食事療法を日常生活に取り込む方法】【薬の副作用と服薬方法】【血液シャントを使った透析治療とその効果】【シャントの知識】【透析室の様子や過ごし方】【患者会があること】であった。また、保存期に得ておきたかった知識・情報は、【末期腎不全の病態と症状に合わせた過ごし方】【シャント造設術を経験していく過程で必要となったシャントの知識】【患者により異なる透析治療後の影響】【社会保障制度の利用】であった。

慢性腎臓病患者は保存期療養生活中に、病気や治療、食事に関する様々な知識・情報を得ており、透析療法が近づき準備が始まってくるとさらに具体的な知識・情報を必要としていることが示唆された。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有（新潟県看護協会看護学会）